

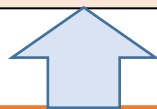
令和8年度 重点研究 全体計画

1 研究主題

学校教育目標

自ら学び やさしい心で たくましく生きる 子ども

健康な心と体を持ち 自分も友達も大切にしながら自らの言葉で伝え行動できる たくましい子どもを育てます



令和8年度 研究主題

「人が好き 町が好き 自分が大好き」と思える子どもの育成

～まちやヒト・モノ・コトのかかわりを通して、主体的対話的に活動する子どもを 目指した活動ができる単元づくり～

2 研究主題について

【生活・総合を研究して2年目】

本校では R7 年度より、生活科・総合的な学習の時間を研究教科とし、重点研究に取り組んできた。

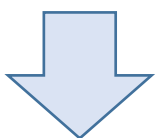
総合的な学習の時間を研究の中心に据えた1年目であった R7 年度は、「総合とはどのような学習か」「単元をどのように立ち上げればよいのか」といった基礎的な理解を深めることを主なねらいとし、講師の先生からの講話や、学年・ブロックごとのワークショップを通して、単元構想の考え方や立ち上げの方法について学んできた。

【昨年度の成果】

実際の実践では、子どもたちは地域の人や活動、身近な題材と関わる中で、意欲的に学習に取り組む姿が増え、自己肯定感の高まりや地域への愛着が感じられる場面も多く見られるようになった。また、友達と話し合いながら活動を進めようとする姿や、体験をもとに考えを広げようとする姿も見られ、総合的な学習の時間を中心とした学びが、子どもたちに前向きな変化をもたらしていることが分かってきた。

【昨年度の課題】

昨年度末に実施したアンケートや日常の実践を振り返る中で、対話の質の向上や、自分の考えに根拠をもって伝える力、地域により主体的に関わろうとする姿については、子ども自身の思いや願いを起点とした主体的な学びへ十分につながっていない場面も見受けられた。

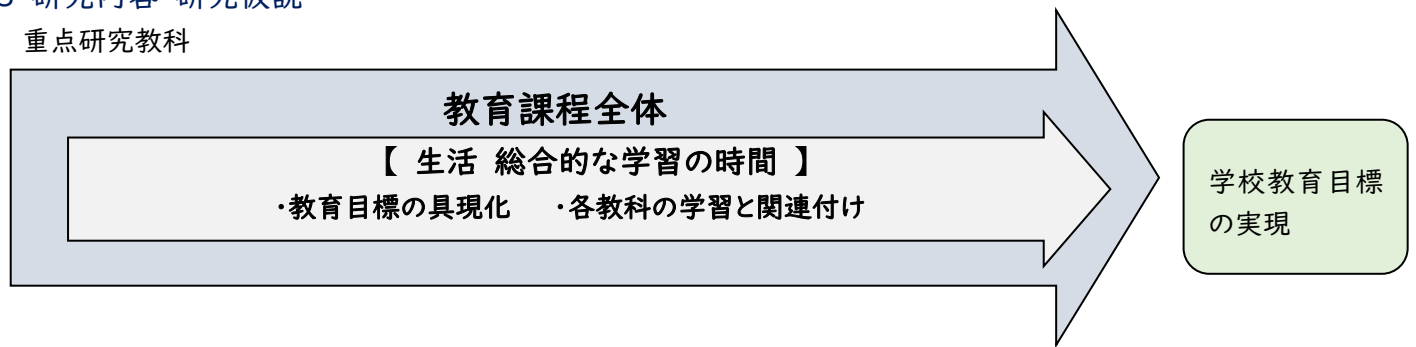


そこで今年度は、昨年度に培った「総合の立ち上げ」に関する共通理解を土台としながら、研究を一段階掘り下げ、「どのような単元を構想すれば、子どもたちが人やまち、自分自身を大切に思い、さまざまな人・もの・ことと関わりながら、主体的・対話的に活動することができるのか」という視点をもって研究を進めていきたいと考えた。特に、単元の中に必然性のある対話の場を位置付けたり、子どもの思いや願いが学習の出発点となるようにしたりするなど、単元づくりそのものを見直していくことを大切にしていきたい。

以上のことから、今年度の研究主題を設定し、**子ども一人一人の思いや願いが生かされ、対話を通して学びが深まる授業実践** を積み重ねていきたい。

3 研究内容・研究仮説

重点研究教科



生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

これからの社会を生きる子どもたちには、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力といった知・徳・体をバランスよく育成していくことが求められている。そのためには、自ら課題を見だし解決していく力や、他者と協働するコミュニケーション能力、物事を多様な視点から考察する力、必要な情報を取捨選択する力など、いわゆる「生きる力」を身に付けていくことが重要であると言われている。

これらの力を育成していくためには、子どもたちが学習を「自分事」として捉え、主体的に関わっていく経験を積み重ねていくことが不可欠である。そのため、教師が一方向的に進める学習ではなく、子どもたち自身が課題解決に向けて見通しをもち、試行錯誤しながら粘り強く学び、友達と知恵を出し合いながら協働的に学び合う経験を大切にしていきたい。そして、こうした学びの経験と積み重ねた自信が、子どもたち自身の思いや願いを実現していくための基盤となることを期待している。

4 研究仮説

研究仮説

① 単元の立ち上げ・構想

子どもの思いや願いを基に課題を設定し、地域の人・もの・ことと必然的に関わる単元を構想することで、学習を自分事として捉え、意欲的に活動するようになるだろう。

② 目的を意識した対話

対話の目的や視点を明確にした話し合いの場を意図的に設定することで、考えを深めたり、相手の考えとつなげたりしながら学ぶ姿が見られるようになるだろう。

③ 振り返り・自己理解

学びや関わりを振り返る機会を重ねることで、自分の成長や人・まちのよさに気付き、「人が好き・町が好き・自分が大好き」と感じる子どもが育つだろう。

昨年度は、総合的な学習の時間の立ち上げを中心に研究を進め、子どもたちが地域の人・もの・ことと関わりながら前向きに学ぶ姿が見られるようになった。一方で、対話が表面的に終わってしまう場面や、自分の考えを根拠をもって伝えることに自信をもてない姿といった課題も明らかになった。

そこで今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、研究を一段深め、どのような単元づくりを行えば、子どもたちが人やまち、そして自分自身を大切に思いながら、さまざまな人・もの・ことと関わり、主体的・対話的に活動することができるのかという視点をもって研究を進めていきたいと考える。単元の立ち上げ段階から子どもの思いや願いを大切にし、学習の必然性が生まれるような関わりや対話の場を意図的に位置付けた単元構想にこだわっていく。

教師は、子どもたちの学びの主体は子ども自身であるという意識をより一層高め、一人一人の思いや願い、考えや学びの過程を丁寧に捉えながら、授業を見直し、改善していく役割を担っていきたい。

このような実践を積み重ねることで、子ども自身が「人が好き・町が好き・自分が大好き」と感じられるようになるとともに、教師自身も「やってよかった」と実感できる研究を目指し、学校教育目標の実現につなげていきたいと考える。そのため、研究授業や協議の場では、研究仮説に基づいた手立てが子どもたちにどのような変容をもたらしたのかを具体的に検証し、どのように改善していけばよりよい単元・授業になるのかを、参加者一人一人が自分事として話し合える研究を進めていく。

○検証方法

- ・総合の立ち上げのタイミングで全校にアンケートを取り、同じものを年度末に行い、変容を見ていく。
- ・毎回の振り返りの内容

5 研究方法

○研修

本年度は、単元づくりに焦点を当てた研究を進めていくために、年度初めに校長先生のお力をお借りしながら、単元づくりの基本的な考え方や構想の進め方について学ぶ研修を行っていく。

単元構想の段階から校長先生に助言をいただき、構想した内容について検討を重ねることで、子どもたちの実態に即した、より主体的対話的に活動する子どもを目指した単元づくりにつなげていきたい。また、7月を目途に単元の立ち上げを行う。

年度初め:校長先生による研修 → 7月までに単元の立ち上げ → 授業実践

○授業実践

一人1回の研究授業を行う。1・2年生、個別支援学級は生活科、3・4・5・6年生は、総合的な学習の授業を行う。

研究授業前の指導案検討会を各ブロックで行う。検討会は、ブロックを中心に、部会内で計画的に綿密な教材研究を行い、普段の実践とともに、主題、副主題に迫ることができているか、その学級の子どもたちに合った手立てとなっているか検証を行う。専科は、研究主題・副主題にそった、**専科の研究授業を行い**、個別支援級もクラスでの研究授業で、主題・副主題の検証を行う。

○生活科では、先行授業を行ったり、互いに授業を見合ったりして指導に役立てていく。

○部会に分かれて事後の研究協議会を行い、各部会で話し合ったことを全体会で共有する。

(部会検討会における司会と記録は各部会で担当を決める。)